

平成29年度 学校評価（自己評価書・学校関係者評価書）

平成30年2月15日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方針 次年度への課題 （★学校関係者評価を受
職員相互の信頼と協和を基盤として、創意と活力に満ちた学校の創造に努める。	チーム南稜としての組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の健全な成長のためにチーム南稜の一員として学校運営への参画意識をもち、協力し合える教師集団をめざす。 ○意見を言い合える批判的な同僚性のある風通しのよい職場づくりに努める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画や学校行事、学年行事の検討など、学校経営・カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、職員集団が主体的に参加しようとする姿勢が認められた。 ・職員相互の関係性はたいへんよい。不備な点を補いフォローする体制もできている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、教職員のピラミッド型がしっかりと形成され、組織としてチームワークのよい学校である。 ・部活動指導等複数での指導体制では指導方針を一致させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職務遂行のために、互いを厳しく見つけ合い高め合う姿勢が出るとよい。 ★部活動指導者会において「指導の手引」に準拠した指導方針の徹底を図る。また、各部活動でのミーティングの充実を図り、部員との意思の疎通を図る。
生徒が進んで取り組むことのできる魅力あふれる教育活動を推進し、生徒の自ら学ぶ意欲や主体的な活動向上に努める。	深まりのある学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領の学習を深め、主体的・対話的な深まりのある問題解決的な学習を推進する。 ○深まりのある学びの基盤となる「基礎・基本の定着」を徹底する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的な深い学び」を目ざすため、問題解決的学習の試みもみられた。生徒は根拠に基づいた意見や考えをもちはじめた。 ・各教科学習で「ふりかえり」を徹底させることにより、生徒は学びの成果・不備を確認することができた。 ・生徒は小テストやコンクールには意欲的であり、有効に活用することにより基礎・基本の定着を図ることが可能である。 ・本年度定期的に委員会を配し、生徒が委員会活動に参加する回数を増やした。結果、生徒の自治意識と参加意欲は高まった。 ・全校集会のあり方を改善し、委員会の発表など生徒主体の企画・運営の機会が増えた。 	A	<p>生徒は教科コンクールがあると、家庭で一生懸命勉強している。範囲が限定しているので学習も要点を絞ってやりやすいようである。このような機会を増やすことが、基礎学力の向上につながると考える。</p> <p>・学校外では同学年とさえ交流しない昨今であるがゆえに、中学校における縦割り活動はとても貴重である。ただし、活動に真剣になりすぎて、高圧的になったり、いじめにつながったり、諸問題も含んでいる。よりよい活動となる配慮が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着のために、「わかる授業」を工夫し、きめの細かい評価を指導に生かすよう、評価と指導の一体化を目ざす。 ★生徒が達成感や成就感を味わうことができるよう、教科コンクールを計画的に配置し、学習意欲の向上に努める。 ★委員会活動など平素の活動においても縦割り集団の利を生かし、上級生から下級生への活動の伝授と指導により、生徒集団の望ましい関係性を築く。
	自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒目標「南稜 station～新たな自分へ再出発～」を合言葉に、学校行事や生徒会・委員会活動等を通して生徒の自主性と温かい人間関係を育む。 	B					

る。教育諸条件の整備と改善を図り、生徒の成長に生きて働く教育環境づくりに努める。	健やかな心の育成	○道徳教育の充実に努め規範意識の育成を図るとともに、さまざまな場面で生徒に問いかけ、考える力を育てる。 ○不登校生徒等の情報交換と指導方針の検討を生活サポート委員会で行い、共通理解したうえで当該生徒に寄り添い指導を重ね、不応の改善に努める。	B	B	・新しい道徳学習のあり方の研究に努め、ケースメソッドを主眼においた取り組みも見られ、質的にも高まりつつある。 ・生活サポート主任、養護教諭、学年主任、担任との連携はよく、対応や支援のあり方についてよく検討された。その結果、支援生徒の状況が改善された。 ・各学年総合学習のテーマを生徒の望ましい成長を旨しテーマ設定され、体験活動を取り入れた学習を展開できた。	A	・不登校生徒の対応については、年々対応が難しく複雑化していると思うが、ぜひケースに応じた個別の対応をお願いしたい。将来、授業や行事に復帰できるためのプログラムづくりや環境づくりをお願いしたい。	・3年間を見通した(段階的・系統的関連性のある)取り組みになっているかは疑問である。学年単独で考えるのではなく進路指導部を中心に全職員で計画を練り、整合性のあるテーマの配置を考察したい。 ★専門機関・識者を交えた拡大生活サポート委員会の組織作りと定期的な委員会の開催を考えていきたい。
	生き方教育(キャリア教育)の充実	○3年間を見通し、学年ごとに適切な体験活動や体験学習を位置づけた総合的な学習を展開する。	B					
める。開かれた学校づくりを進め、家庭・地域社会との連携強化に努める。	家庭や地域社会との連携強化	○保護者や地域の方へ、学校での様子を伝えることで、信頼関係を構築する。 ○保護者の声を把握し、学校経営の改善に生かす。	B	B	・学校HPを改訂し、校内事情を広く発信できた。 ・保護者会や各種会合等での意見は集約され、全職員で共有され、教育課程の改善に活用できた。 ・1年生が、地域交流型学習、くすのき特支学校との連携学習「くすなん会」を発足させたことは大きな成果である。	B	・学校行事や、部活動大会状況、不審者情報など細やかなメール配信による情報提供には感謝している。 ・くすなん会の発足とその実践は画期的だと思う。地域内異校種交流など今日的な取り組みだと評価できる。先生方や生徒もさまざまな発見・学びがあることだと思う。	・「地域の教育力を生かす」は本校における今後の課題である。「校区の職業人に学ぶ」「地域ふれあい講座」などの取り組みなどを考えた。また、授業補助ボランティアなどの取り組みも考えた。 ・地域行事を把握し、すすんで生徒の参加を促す指導が必要。
	地域の教育力の活用	○地域の人材の発掘、地域施設の活用に取り組む。 ○地域の活動への生徒の積極的な参加を促す。	C					
としての指導力の向上に努める。	教師の力量向上	○授業研究会について、問題解決的な学習に取り組みブロック内小学校とも連携して行う。 ○ブロック合同現研への積極的に参加する。	B	B	・校内現研では「授業研究会」を中心に、授業力向上に主眼をおいた研修を深めることができた。 ・夏季ブロック合同現研では「道徳の教科化を踏まえた道徳学習のあり方」について研鑽を深めることができた。	B	・日進月歩で変革される教育の在り方に対応されておられる先生方に感謝する。日々研鑽であるかと思うが、南稜生徒のため、ひいては南稜地区、豊橋のためとがんばってほしい。	・定期的な校区小中交流活動を展開したい。 ・教職員の幅広い資質・指導力向上のための研修が計画されなければならない。OJTの充実が喫緊の課題である。

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】